

人の心も照らす光、
幸も豊か、
鳥

朗らかな人の心は くもりを照らす光



え・城谷俊也

十二月のテーマ

積極的に生きる

以 前勤めていた会社を退職し、
新しく製造業の会社を起こ

したY氏。起業してから数年間は、
順調に業績が伸び、会社もどんど
ん大きくなりました。

ところが、ある年を境に仕事を
すればするほど赤字になるとい
う状態が続き、原材料の高騰なども
重なって、倒産寸前という状況に
まで陥りました。

銀行の融資を受けるために人員
整理を行ない、金策に走り、身も
心もボロボロの状態です。車も運
転中、
このまま崖の方へハンドルを切
れば、保険金で会社を救えるだろ
うか」と頭をよぎるほど、思いつ
めるようになっていました。

そうした中、懇意にしていた経
営者から「倫理経営講演会」への
誘いを受けました。とにかく会社
を何とかしたいという気持ちから、
専務である妻と講演会に参加した
Y氏。その中で聞いた「行き詰ま
る会社の共通点」という話が、自
分の会社のことを言われているよ
うに胸に突き刺さったのです。

その話の中に、「無理、できな

い」が口癖になっていく会社」と
いう項目がありました。まさにY
氏の会社でも、「無理だ」「できる
わけない」という言葉が日常的に
飛び交っていたのです。Y氏自身、
経営が苦しくなるにつれ、寝床の
中で自問しながら「無理だ、でき
ない」と毎晩のように唱えていま
した。それを社員がオウム返し
のように口にするのは当然だろうと
講演を聞いて思ったのです。

「自分の後ろ向きな気持ちが社
員に反映していたのではないか」
と気づいたY氏は、倫理法人会に
入会し、毎週「経営者モーニング
セミナー」へ参加するようになり
ました。そこで出会う仲間たちの
話を聞いていくうちに、「倫理の実
践によって勇気と信念を植え付け、
自信を持つ。何事にも積極的に
行動できる人間になろう」と決意
をするに至ったのです。

それからは、社内で率先して元
気な挨拶をするようになったY氏。
社内の会議では「無理だ、できな
い」を禁句としました。代わりに、
毎朝の朝礼で「やります。できま

す。頑張ります」と唱和するよ
うにしました。

最初はぎこちなかったのが、毎
日朝礼で唱和していると、社内の
雰囲気は次第に明るく変わってき
ました。また、会議に臨む際の気
持ちが前向きになって、建設的な
意見が交わされるようになってき
たのです。やがて業績も回復に向
かい、あれほど思いつめていたこ
とが嘘のような明るさが社内に戻
ってきたのです。

*

企業とは人の集合体です。そこ
で働く人によって、社風が作られ
ていきます。最も大きく影響する
のは、経営者の姿勢です。

困難の中にあっても、企業のト
ップが明るく、朗らかに仕事に向
かうところに、前途は開かれるも
のです。明朗になるには、Y氏の
ように形や言葉から入るのも良い
でしょう。『万人幸福の業』の一節、
「朗らかな人の心は、世のくもり
を照らす光である」(61頁)とは、
まさに経営者のためにあるような
言葉ではないでしょうか。